

分科会案内

1，子どもたちの生活を父母と伝え合う

学童保育では、父母と指導員とが子どもをまん中に、「こんな子に育ってほしい」と語り合いながら生活をつくることを大切にしてきました。父母からは家庭での様子を、指導員からは学童保育でのことのようなすを伝え合い、子どもをよりよく理解しようと努力しています。今日、子どもを育てることがだんだん難しくなっています。こうした“共同の子育て”をどう進めるかを交流しましょう。

1 - イ【世話人】荒川誠（所沢市）、小沢明子（さいたま市）
【レポーター】渡辺紀子（草加市）「思いを受け止め伝えることの難しさ」/ 束前有希（飯能市）「Tの成長を保護者と共に」

1 - ロ【世話人】川田富士子（深谷市）、竹内れい子（草加市）
【レポーター】伊藤美知子（飯能市）「Aの気持ち～子どもの思いを親に伝える～」/ 楠瀬真理子（春日部市）「お母さんに伝えたい」

2，一人ひとりを大切に作る生活づくり

学童保育は、まずは子どもたちが学校の課業から解放され「ゆったりできる」場でありたいと思います。指導員は、そうした子どもたち一人ひとりをていねいにとらえながら、よりよい成長を願って生活づくりを工夫しています。毎日の生活づくりでどんなことを大切にし、子どもたちの育ちを励ましたらよいかを交流しましょう。

「一人ひとりを…」のテーマで5分散会に分かれて討議します。

2 - イ 高学年を含めた生活づくり

【世話人】佐藤正美（さいたま市）、谷口利恵子（深谷市）
【レポーター】木田直秀（加須市）「高学年との関わり～Yとの2年半」/ 橋口八重子（所沢市）「とても気になってしまうTちゃん」

2 - ロ【世話人】加藤京子（北本市）、松崎波留美（寄居町）
【レポーター】香川笑美（さいたま市）「Hのことを理解するために」/ 田村喜代子（深谷市）「遊びといじめの境界線」

2 - ハ【世話人】鈴木慶子（富士見市）、藤岡久代（さいたま市）
【レポーター】奈良千鶴（栗橋町）「Aくんとの関わりで見えてきたこと」/ 柏木なほ子（飯能市）「気づけなくてごめんね～Yくんの居場所」

2 - ニ【世話人】稲葉秀子（神川町）、原佐登江（越谷市）
【レポーター】中島素子（川越市）「I君との生活で考える事」/ 佐藤奈津子（さいたま市）「そのままのKくんを受けとめていきたい」

2 - ホ【世話人】前田明子（富士見市）、高塩千枝子（草加市）
【レポーター】上村仁美（坂戸市）「Yは何を思ってるのだろう」/ 山川えい子（さいたま市）「自分の気持ちを伝えよう」

3，障害児を含めた生活づくり

私たちは、条件づくりにもとりくみながら、できる限り障害児を受け入れる努力を続けてきました。また、友だちとの生活と指導員の適切なはたらきかけの中で障害児が育つことを確かめてきました。障害と障害児をどう理解するか、どのようにはたらきかけるか、健常児との関わりで何を留意しなくてはならないのか等を交流します。

3 - イ【助言者】細野浩一氏（知的障害者更生施設「結の里」施設長）
【世話人】坂内亮司（さいたま市）、細野恵（所沢市）
【レポーター】蓬田智春（坂戸市）「Rの気持ちと学童の生活」/ 村本直美（北本市）「少しずつみんなの中へ」

3 - ロ【助言者】清水均氏（埼玉県立三郷養護学校教諭）
【世話人】河野伸枝（飯能市）、中田朝子（北本市）
【レポーター】井原悦子（所沢市）「未定」/ 白石節子（さいたま市）「仲間の中で育つということ、R流のやり方に寄り添って」

4，クラブだよりをもとにした実践討議

【世話人】亀卦川茂（富士見市）、小川裕子（春日部市）
【レポーター】大窟優子（飯能市）クラブ便り「とおりゃんせ」/ 諸敬子（熊谷市）クラブ便り「久下トミヨKids」/ 三浦美穂子（さいたま市）クラブ便り「つくしんぼ」
学童保育での子どもたちの様子を父母に伝え、子どものことを一緒に考える上でクラブだよりは大きな役割を果たしています。「子どもたちの生き生きとした生活を伝えられると安心する」と父母は言います。クラブだよりを持ち寄り、それをもとに実践討議を行います。

5，障害児学童保育の生活づくりを豊かなものに

障害児学童保育は県内で25カ所にまで増えてきました。実践の積み重ねの中で、個々の子の障害の種類や程度、発達年齢による興味・関心の違いに応えた実践を模索する段階となっています。小学部から高等部まで年齢幅が大きい子たちが一緒に生活していることが特徴である障害児学童保育の生活づくりの難しさがあります。生活づくりで何を大事にしていくか、どのようにつくっていくかを深めます。

5 - イ 障害児の生活づくり

【助言者】竹脇真悟氏（埼玉県立越谷養護学校教諭）
【世話人・記録】げんきクラブ、なかよし、げんきクラブ
【レポーター】松田遥香（げんき）「Fちゃんのおトイレ大作戦」/ 程塚真依（すきっぷ）「便器君によるしく」/ 小原里英子（ぼしえつと）「Mくんと歩こう」

5 - ロ 一人ひとりを大切に
【助言者】村岡真治氏（小平市ゆうやけ子どもクラブ指導員）
【世話人・記録】大きな樹、たんぼぼ、バナナキッズ
【レポーター】川瀬昌子（バナナキッズ）「Kちゃんとの半年」/ 小出奈津子（たんぼぼ）「R君との日々」/ *もう1本

6，自治体に対してのはたらきかけをどう進めるか

県全体としては、「放課後児童クラブ運営基準」を「次世代育成支援行動計画」に位置づけて市町村施策の改善を促しています。しかし市町村では「指定管理者制度」があちこちで導入される、行財政改革プラン等をテコに事業縮減を図る、そして来年度からは、文部科学省と厚生労働省が「放課後子どもプラン」を開始するという新たな動きもあります。今日の自治体の動き、私たちのとりくみ出し合い、制度・施策の改善をどう進めていくかを考えましょう。

6 - イ 「指定管理者制度」に関わる分科会
【助言者】角田英昭氏（神奈川自治体問題研究所事務局長）
【世話人】志村伸之（県連協運営委）、（ ）（県連協運営委）
【レポーター】「3カ年を振り返って、また新規の公募を迎えて」草加元気っ子クラブ / 「業務委託の学童保育に導入前夜？」北本市連協 / 「管理委託地域」富士見市がくどう保護者会連絡会

6 - ロ それ以外の問題に関する分科会～父母会・地域連絡協議会の組織・活動の交流も含めて
【世話人】薄井俊二（県連協・会長）、山本和順（県連協・事務局長）
【レポーター】「市単独施策の誕生、運営基準、保育指針」さいたま市連協 / 「市と父母・指導員とでプロジェクトづくり その後」上尾市連協 / 「高学年問題解消のための請願署名のとりくみなど」草加市学童保育連絡協議会

7，1人ひとりを大切に作る父母会活動、父母同士の関わりづくり
【世話人】山本勝子（幸手市）、（ ）（保護者）
【レポーター】恩田明子（富士見市）「仲間と一緒に子育てを考えて」/ 鈴木幸治（寄居町）「保護者会における父親の役割」
「父母会がわずらわしい」「なかなか集まらない」という声が聞かれます。「金かせぎに振り回されて子どもの話ができない」「父母の労働形態の変化で会議設定が難しい」という事情も。一方で、「子育ての悩みや喜びが共有できてホッとする」という声も。また、「会議に出席できない家庭の事情も理解した上でとりくみを工夫している」「日常的に交流の場を設けている」などのとりくみも。父母会とは何か、父母会をみんなのもの、魅力あるものにするにはどうしたらよいかを交流します。